

とよがわじょうかセンターはすごい場しょ

金屋小・2 今泉 りく

ぼくは、夏休みにとよがわじょうかセンターへ見学に行きました。さいしよは何をするところか分かりませんでした。見学をしているとたくさんを知ることができました。

一つ目は、じょうかセンターでよごれた水をきれいにしていることです。ぼくたちがはみがきやおふろの時などにつかった水は、下水道を通じてじょうかセンターにながれていきます。

じょうかセンターでは、さいしよに、「ちんさち」というところで大きなゴミをとりのぞきます。つぎに、「さいしよちんでんち」というところではみやすいよごれをとりのぞきます。そのあと、「はんのうそう」というところで水の中よごれをびせいぶつに食べさせ、水をきれいにしています。さいごに、「さいしよちんでんち」というところできれいになった水とびせいぶつを分けます。そして、しよどくして海や川にながされていきます。たぐさんのしせつを通じて水がきれいになっていくかんじがしました。

二つ目は、そのしせつを見まもつてくれている人たちがいることです。二十四時間三百六十五日こうたいしながらわるい人たちが入ってこないようかんしたり、きかいがこわれた時にすぐにうごけるようにしたりしています。その人たちのおかげで水がきれいになっているのだと思いました。

三つ目は、水をきれいにする時にびせいぶつがはたらいていることです。びせいぶつというのは、目に見えないくらいとても小さい

せいぶつのことです。けんびきょうという小さなものが大きく見えるそうちで、びせいぶつを見る体けんをさせてもらいました。いろいろな形のびせいぶつがいて、それぞれに名前がありました。ぼくが見つけたのは、「シャトノータス」というびせいぶつです。「シャトノータス」は、細長い二つのしっぽみたひがあるのがとくちょうです。いつしよに行つたお母さんは、「エピスティリス」という花のつぼみがあるようなびせいぶつを見つけていました。ぼくが、

「これなんだろう。」

と言うと、お母さんが、

「アルケラにも見えるし、アスピディスクカにも見えるね。」

と言ひました。時間がなくて少ししか見つけられなかつたので、もつと見つけたかつたです。ぼくは、びせいぶつのことを今まで知らなかつたので、とても小さいびせいぶつが水をきれいにしているびつくりしました。

ぼくたちは、一日千リットルくらいの水をつかっているそうです。ぼくたちが水をたぐさんつかつた分、びせいぶつがたぐさんがんばらないといけないので、これからは水を大切につかおうと思ひました。水を出しつばなしにしないことと、食べのこしはそのままがさないで、ゴミばこにすててからあらうように気をつけたいです。びせいぶつが楽になつてくれたらいいなと思ひました。